

平成26年度採択 領域開拓プログラム(公募型研究テーマ)
◆課題:「情報メディア発展のもとでの新しい地域研究」
◆研究テーマ:「新たな華語情報環境のもとでの中国研究が示唆する次世代型地域研究」

<研究代表者>

鈴木 賢: 明治大学法学部 / 教授

<専門分野> 比較法・中国法・台湾法・メディア研究
<Webページ> <https://www.suzuki-asian-law.com>
https://ceams.imc.hokudai.ac.jp/data/chinesemedia_asia.pdf

フランスRFI
中国語放送



<研究目的、概要>

・従来の地域研究は、当該地方で発行された現地語文献、現地での聞き取り、観察が主要な情報源であったが、グローバル化の進展と情報通信技術の発展により、大きな変容が生じている。
・とりわけ華語メディアは、中国国内・外から世界へ向けて大量に発信されており、英語につぐスケールで勃興している。将来の中国研究は、こうした華語情報の越境時代に即応した新たな枠組みが求められている。



急激な情報環境の変容が、中国・大中華・華人研究にいかなる対応を迫っているかを、法学、メディア研究、政治社会の3分野に即して整理。内外の華語情報の収集・分析、中国及び欧米各国の越境華語メディアの現場での聞き取り調査を行い、以下の3点を明らかにする。

1. 国家主導による情報環境の統制とその変容のありよう
2. メディアの産業化およびネット世論の形成の現状
3. 国境を越えてグローバルに広がる華語メディアの展開と大中華メディア空間の誕生



新たな情報環境のもとでのグローバルな越境情報をいかに地域研究一般に活用し、現地情報との協働を図るかについてのモデルを提示。中国語情報を通じたグローバル人材育成の拠点形成に寄与する。

<異分野間での研究プロジェクト運営>

法 学 班

メディア
研究班

政 治 社 会 班

異分野に跨がる共同プロジェクト: 中国大陸以外から発信される華語情報を法学、メディア研究、政治社会研究にいかに関活用するかディシプリンを超えて協働して検討した。

工夫策: 北米、独仏での華語情報発信現場でのヒヤリング、参与観察、訪日招聘シンポによる情報源比較研究。
成功要因: 緊密な連絡体制によるチームワーク醸成。

<研究成果、波及効果等>

中国語 → 英語に次ぐ global language

グローバルに展開する華語メディア: 反中国政府的なメディア、中立的なメディア、中共資本による買収などによる(いわゆる走出去) 親中共のメディアなどが世界に林立。北米、欧州、台湾・香港・シンガポールなど

海外華語メディア情報の意義:

- ① 中国の実情を知るためには、これら海外の体制批判的なメディアの活用は重要性を増している。中国における人権、差別、権利保護運動、権力の暴力による統治の実情把握には、自由な海外華語メディアの提供する情報が有用である。
- ② 中国の民主化運動にとっては、これら海外の華語メディアはその発信塔になっており、運動の影響力発揮、発言のルートとして重要な役割を担っている。中国の党、政府もその動向には注視している。

中国研究への海外華語情報の活用可能性:

本研究プロジェクトにより海外華語メディアの位置づけ、価値、特殊な役割と限界が浮き彫りにされ、その有用性が明らかにされた。当局とは距離を置いた研究に活用できる情報源。政治、法、経済、社会、宗教、民族問題、人権、民主化、労働、貧困、環境、権利擁護、NGOなど。

本研究が拓いた若手のキャリアパス 徐行(研究分担者): 東京大学助教(任期付き) → 北海道大学准教授(任期無し)